

# 延浄寺だより

## 平成二十九年お盆

03・3326・7337  
03・3326・2797  
FAX 03・3326・5037

もうすぐお盆

7月13日(木)から16日(日)

### 7月13日(木)

### 正午から合同法会

阿弥陀経をお勤めします。お位牌があれば御持ち下さい。

日本では昔から、ご先祖が盆の13日に里帰りをし、16日に還っていくという、仏教の教えがあります。

東京とその近郊以外は「8月の盆」が一般的です。全国的にはお盆と言うと8月です。ご先祖が帰ってくるのですから、みんなも実家に帰り仏壇の前で先祖や故人とともに過ごすためお盆休みがあります。

昭和の30年代頃までは、このような生活習慣もあったようですが、高度経済成長とともに失われ、今はお盆休みだけがあり、みんなが故人や先祖とともに過ごす「心の触れ合い」は薄くなってしまったようです。

でも故人やご先祖に感謝するお墓参りの習慣は続いています。

浄土真宗では亡くなると阿弥陀様の光の中に入っていくのですから、阿弥陀様の光の中で生かされている私たちは、いつも故人やご

先祖と共にいるわけで、お盆の時だけ帰ってくる訳ではないのです。

でも年に1度ぐらいはご先祖との「ふれあい」を積極的に持とうということで、日本の習慣にならって13日から16日までは、お盆の行事があります。

浄土真宗では、ご先祖が帰るためのお迎えや盆飾り精霊棚(故人の好きだった物などをお供えする)はありませんが、新盆で贈られた提灯などのお飾りは結構なことです。故人を想い、その触れ合いの中で仏壇を飾ることで、故人と「気」が通じます。



7月13日12時から皆さんで阿弥陀経をお勤めします

阿弥陀経はお釈迦さまがお説きになった阿弥陀様の教えで、悟りの場(阿弥陀様の光の中)浄土のあり様を説き、どうしたら浄土に往生できるかを示したお経です。

読経後は心が落ち着くものです。意味はほとんどわからなくても、お経そのものが持つ「なんとも不思議な力」が心に伝わるからでしょう。

読経は式千年以上も前から絶えることなく続けられてきたのですから、ご先祖の声が凝縮されているのでしよう、だから法事のお勤めするとき故人やご先祖に「気」が通じ

るのです。読経の後の雰囲気の違いでわかります。

どうぞ皆様方お揃いでお出かけください。お待ちしております。

故人と通じる携帯がある?

### 念珠(数珠) 携帯

音・声ではなく気が通じる

人は誰しも気を持っています。あの人は気が強い、気が小さい。気が通じ合う。気が休まる。気が抜けたようになった。等々や、昔教師だった頃よく聞いた話ですが、うちの子はちっとも勉強しません。本気になってやればもう少しできると思うのですが、人は気が向かないと何も「やり」ません。五感の根源に気があり、気がついたらするのですね。

亡くなっても気がある

人が亡くなると当然のことですが五感は無くなり「見ることも話すことも聞くことも出まなくなりますが」でも亡くなっても故人の「気」はある」と葬儀をする度に、最近思うようになりました。

亡くなっても気の通じ合いはできるのです。

ではどうしたら気が通じ合えるのか、故人と気が通じ合う方法を考えました。まだ、葬儀で体験を重ねていますが亡くなった人と気が通じ合える携帯を考えたいのです。

これは日本中を探しても私だけが考え実践しているのですから、ほとんどの人は「そんな馬鹿な!」と信じてくれないと思いますが、信じてくれる方は大変感動をしてその通りだと話してくれます。その気にならないとだめ

なのですね。

故人との気の通じ合える携帯は何か

どんな携帯? 念珠携帯(数珠携帯) どのような方法で?



お通夜の時、読経が始まる前に故人の合掌した手に念珠を掛けます。3本の携帯がほしい場合は、3本の数珠を故人の数珠に重ねておきます。

故人の手にはひと晩4本の念珠が掛かっています。故人は4本の念珠をかけて次の日の葬儀を迎えます。

故人が一晩4本の念珠を持つことで、4本の念珠のスイッチがONになります。

告別式のお花入れの前に故人から3本の数珠を受けとります。1本は故人と共に火葬されます。

この数珠は故人との携帯ですからこの数珠を持つと、故人との「気」のやり取りができます。また数珠をかけてみたいと思つた時故人からの、「気」が送られてくるのだと思います。

「気」のやり取りは五感とは違いますから、故人が見えたとか声が聞こえたとかいうことではありません。でも確かに触れ合っている充実感はこのころようです。

つい最近の葬儀でご家族の触れ合いが深いY家に数珠で心をつなぐ携帯の話をしました。Yさんから葬儀と数珠についてお手紙を頂きました。

「感じる」ことについて

先日、父の葬儀が無事に終わりました。家族葬でしたが、久しぶりに会った親戚たち皆が一つになって、温かく父を送ることが出来ました。

父は6人兄弟の末っ子です。両親と兄弟5人すべてを供養し、そのことに幸せを感じるような父でした。また、長く勤めていた鉄道の仕事を退職する時には、駅の売店のおぼちやんや通勤客にまで「お疲れ様、ご苦労様」と声をかけられるほど慕われていたそうです。

私たちが子どもが困った時は必ず助けました。孫のことまで心配してくれる愛情あふれる父でした。そんな父のことをみんな尊敬しています。

そんな父ですから、亡くなって姿が見えなくなっても「つながり」が欲しくなるものです。いつも父が身につけていた時計やまめに記入していた手帳などをそばに置いて、いつも父を感じていたのです。

ご住職が、通夜の時に父の手の上に父の数珠と私たち家族3人の数珠を重ねてお経をあげてくださいました。そして、出棺の時に家族が1本ずつその数珠を頂いたのです。冷たかった数珠があつという間に自分の体温で温かくなりました。まるで父から受け取った心のようにでした。

これで、父の形見にこだわることなく数珠をかけて仏壇の前で手を合わせるたびに父との温かい日々を思い出すことでしょう。

K・Y

\*\*\*注

お棺の中にはプラスチックや金属は入れられません。当寺の念珠は全部木製で特注したものです。もし必要な場合は声をかけてください。

\*\*\*浄土真宗では数珠を念珠と言いますが、ここでは両方を使っています。

延浄寺のふれあい

歌声で楽しむ

7月21日(金)10時30分〜12時(8月は25日)

だいぶ前から「会館」で歌声を楽しんでいます。アコーデオンはプロの森陽介さんで歌唱指導もあります。

誰でも歌える昔懐かしい歌です。声を出すことは健康に良いし友達も出来ます。是非お出かけ下さい。

50代から80代の男女20名程度です。男性は3分の1

またこのグループで第三木曜日の午後1時から3時まで自主的にカラオケで楽しんでいます。自由参加です。

(詳細は

中野一郎さん042-486-9268

健康体操(介護予防)

7月14日(金)10時〜11時30分  
会館2階

毎月第二金曜日10時から11時半、お盆中ですが、皆様が見学・参加しやすいように、あえてお盆中に設定しました。タオルと運動しやすい服装でどうぞ。50代から80代の女性が中心です。

健康体操の指導者 お檀家の後藤利与子さん(健康運動指導士)です。次回開催日時は7月14日(金)10時から11時30分

内容 骨盤(お腹周り)を動かし身体のゆがみを整える運動です。

問い合わせ

後藤利与子090-2755-9822

他にも、生け花・カラオケや、ふれあいの会(65才以上の男性、次回は7月8日(土)17時〜19時)があります。お気軽に参加ください

お墓の紹介

延浄寺の様々なお墓

散骨墓・手元供養・安らぎの墓(寺の墓)・完成墓地があります。

お盆までに安らぎの墓と完成墓地を新たに造りました。

安らぎの墓は昭和58年から徐々に増やし現在8ヶ所(他にペットの墓も)ありますが、もうすぐいっぱいになります。そこで今回100基納骨可能な新しい「やすらぎの墓」(寺の墓)をつくりました。納骨布施は50万円ですが、布施ですので金額はまちまちです。相談に応じます。



完成墓地は小・中の2種類

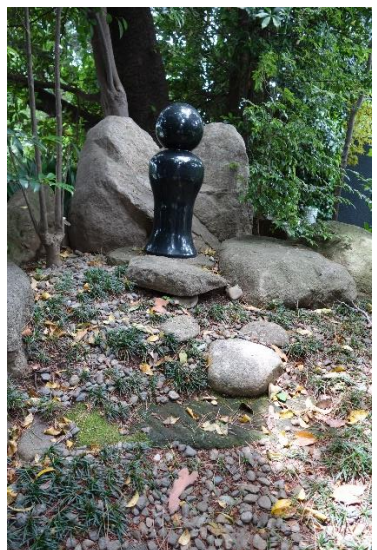


価格は220万円から330万円です。どなたかご希望される方がおいででしたら紹介ください。(お檀家の紹介は割引)

散骨墓では桜の木の下に散骨が注目されています

亡くなったなら阿弥陀の光の中に入ることに賛同して頂ければ檀家にならなくてもかまいません

ません。その場合は30万円の布施としていますが、相談して頂ければ金額は問いません。



最近目につくこと その1

一人暮らしで葬儀はしなくてよい、檀家にもならない、亡くなったなら寺ですべてやってほしい、火葬しすぐに住職が散骨してほしいという方が数名続いて来寺しました。

\*\*\*散骨も安らぎの墓も出来れば生前に寺と契約をし、寺が指定した葬儀社を使用する。(他の葬儀社より安価で信用がおけます)

最近目につくこと その2

墓じまい

当寺に墓がある場合、将来墓を管理する者がいない。どうしようという相談です。後継ぎがない場合は、寺に墓地を返却します。その代り寺では「安らぎの墓」にお骨を移します。費用は刻字代と法要布施程度で結構です。

場合によっては、すべての経費は不要でもかまいません。

地方に墓がある場合

やすらぎの墓に移す場合は数が多い場合は相談に応じます。

大切なことは先方の寺と相談すること、改装手続きを役所で取ることです。延浄寺にまず相談し当寺で受け入れる証明書を出します。また、この逆の場合もあります。家から当寺まで離れているので離檀することです。お骨についてどう扱うか相談します。